

## 下横割のお茶ばあさん

下横割の福寿院に「お茶ばあさん」を祭ったお墓があります。

「お茶ばあさん」は、観音菩薩の化身だといわれ、せきに悩む人々が、お茶を供えてお祈りすると、たちまちのうちにせきが治るといわれています。

### 菩薩の化身のおばあさん

今から三百五十年ほど昔のことでした。上横割の成安寺の逸道禅師というお坊さんは、ぜんそくが持病で隠居し、福寿院に住んでいました。ある日、せきに悩むおばあさんがやってきました。「お」もりしてお祈りしたい」と祈



昭和六十年五月五日号

師にお願いしました。

老婆は、本堂にこもり、ご本尊ほんぞんに茶をささげ、一心に祈り続けると、間もなく禅師のぜんそくも、老婆のせきも全快しました。その晩、老婆はごこともなく消えてしまい、禅師は、きつと観音菩薩の化身であろうと思い、供養くやうを怠りませんでした。

禅師が亡くなって百年あまり過ぎたころです。横割村の百姓長右衛門に一人の姉がいました。この人は、逸道禅師のぜんそくを治した老婆の化身で、病気により、福寿院の住職の枕もとに現れて死んでしまいました。ねんごろに葬ると、どこからともなく「我は世の人々のせきの病いを救おうぞ」という声が聞こえました。

## 市外からもお参り

大石幸一さん（下横割）

福寿院の近くに住む、大石幸一さんは、「今でも市内はもとより、清水・三島などからもお参りに来るよ。お礼参りに来る人も多く、靈験れいげんあらたかだよ。八月七日が祭典だけど、地元の人が案外知らないね。」と語ってくれました。



お茶ばあさんの墓